

グローバル化とコミュニケーションの関係性

3年1組10番 小野内天馬

3年3組38番 吉田晴生

3年4組13番 黒崎珂子

Keyword: 「グローバル化」「異文化」「言語」「コミュニケーション」「異文化交流会」

近年では世界中の人々と交流する機会が増えている中、何を心がけるのが得策なのであろうか。私たちは言語能力および異文化コミュニケーションについての探究を行った。その探究を行った動機は主に二つある。今日、日本は人口及び労働人口の減少、少子高齢化などの様々な問題を抱えている。その中で、外国人移住者を日本の労働人口を補う手段としてとるのはどうかと考えた。それに加えて、近年世界ではグローバル化が進み、異文化を持つ人とのコミュニケーションがますます大切になってきている。そのため、異文化を持つ人とのコミュニケーションを行う際に起こる課題や問題点を理解し、より多くの人に知ってもらうことが、更なる理解を深めることに不可欠だからだ。私たちは、その課題の一つとして「言語差別」があると考えた。留学生と本校の生徒たちで交流会を開き、様々な言語に触れながらゲーム形式で言語を学び、共に楽しむことで言語能力の向上や他文化に、より興味を持ってもらえるのではないかと考えた。世界の様々な人の考え方を知り視野を広げることが自分達のコミュニケーション能力を向上させるのに役立つと考えた。

多文化共生とは、ボーダーレス社会により移住してきた国籍や民族などの異なる人々と日本人が、互いの文化的違いを認めあい、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくことだと言われている。

また、日本人同士でも、育った地域や環境により文化的違いがあり、立場も性格も考え方も異なる存在であるように、「性別、年齢、職種、国籍、障がいの有無、志向や考え方等の違いに関わらず、誰もが、対等で、尊重され、受け入れられ、それぞれが持つ能力と持ち味を活かしあいあなたながら、地域で共に生きていくこと」という意味も含む。

異なる文化を持つ人と誤解などなく繋がるためにはどうすればよいのか。文部科学省は、注1「国際教育の意義と今後の在り方に関する考えとして、国際化がより進展している社会において必要なのは国際関係や異文化を単に理解するだけでなく、自分たちが国際社会の一員としてどのように生きていくかという主体性を一層強く意識することである」と示している。多様な人々との日常的な交流が拡大する中では、異なる文化をもつ人々を理解するだけでなくそれらを受容しながら共生することのできる力が重要であり、共生していくためには、対話を通して、人との関係を作り出していく力が求められる。そのために、自分の考えや意見を自ら発信し、他者の主張を受け止め、具体的に行動することのできる態度・能力を向上させるため、論理的に表現する能力を、グループディスカッションやディベートなどをしていくことが有効である。また、外国語を含めた言語運用能力の育成とともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していく必要がある、と主張している。

先の問いを踏まえて私たちは、実際に国際交流会を計画し開催して、その上で参加者にアンケートを行った。

それらの問題を解決へのプロセスとして、私たちは交流会を開き、本校の生徒と留学生との交流の手助けとなる場を積極的に設けた。普段から行うこととしては、違う言語の人たちと積極的に交流を行い、コミュニケーション不足が引き起こす、数々の問題を解決することに尽力した。

まず、我々は、国際的なコミュニティを築くため、留学生と本校の生徒たちを集めて、簡単なトランプゲームを行った。

<多言語を学べる+協働力が必要なゲーム>

- トランプゲーム「ババ抜き」
- 日本語、ドイツ語、スペイン語、フランス語の4言語 ×10枚
- 数字を消し、カードには各言語での文字表記にする
- ゲーム開始前に、チームごとで協力して数字の1～10の単語を覚える



これらを合計3試合行い、言語能力および、コミュニケーション能力の向上に努めるようにした。

異文化理解を達成するにあたっては、英語やスペイン語などのさまざまな言葉からの理解はもちろん必要であるが、さらに、より深い人間関係の維持も必要である事が、今回の交流会を開催したことによって証明された。その交流会によって証明された事をもとに分析すると、私たち日本人が諸外国の人々と国際的なコミュニケーションを行う上で、もちろん言語の習得をした状況で、コミュニケーションを取ることではっきりとした意思疎通をすることができると思った。これにより、言語の完全な習得は必要であると言える。だが、意思疎通をとる相手の言語を完璧に理解し、習得するのは不可能に近いと思われる。そこで今回の交流会で感じたことをまとめると、言葉による意思疎通があればとても良いが、ボディランゲージを駆使する事によって言葉の壁をある程度壊すことができると感じた。例えば、分からない言葉などがある場合には両手を上げるなどのジェスチャーをすることにより、相手に理解していないことを伝えることができる。

また、私たちは留学生に話を聞く機会を得て、日本に来て、言語の違いによって引き起こされる困ったことや問題点などについて聞くことができた。例えば買い物をするときなどの人との関わりが比較的大きい場面では緊張も加わり、店員とのコミュニケーションが十分に取れず、自分の望み通りにならないことが多々あったようだ。

さらに私たちの学校には、様々な国から来ているネイティブスピーカーの先生が多くいるが、その中には日本語が分からない先生もいる。そのため、英語で会話する事が自然と強いられることが多いと感じる。

これらの研究結果をもとに自分たちは言語の習得も必要であるがそれと同様にどうやって完璧に伝えることができるかを理解しなければグローバルコミュニケーションを身につけているとは言えないと思う。英語が話せても相手に伝わらなければ全く意味がないため、相手に理解されるように解釈を変えることが必要である。交流会の内容から考察してみると声だけでは相手に伝わる内容量がある程度軽減されることが考察される。つまり身振り手振りを含むコミュニケーション方法がお互いの理解において最重要であると考えられる。

本稿では、異なる文化を持つ人と誤解なく繋がるためにはどうすれば良いのか、そして異文化交流会を開いた上で起こった問題をどうやって解決するかをまとめてみた。異文化交流会を開く上での今後の課題はゲームのプレイ中にBGMを流す、英語の説明を作る、留学生と話す機会・時間を増やす、放送で宣伝する。交流会を今後開くときはこの四つを重点的に改善していきたい。例えばなぜゲームのプレイ中にBGMが必要かと言うと、緊張感があるよりは、楽しい雰囲気の方が異文化の人とコミュニケーションを取る上で非常に話しやすい環境だと考えた。つまりお互いが緊張せずに、落ち着いた状況でのコミュニケーションが理解をする上で有効だと証明できる。また第一回の交流会では参加する生徒数が少なかったという意見を受けた。この原因としては事前の準備不足が挙げられる。解決策としては、放送での呼びかけやポスターの掲示などを実施すればより多くの参加者が見込まれる。また交流会では英語の説明を作らなかったため、留学生が全て理解できないと言う事態が起きてしまった。そのため自分たちは説明書の撮影および自分たちも英語で説明できるような状況を整えておくことが重要であると考えた。またコミュニケーションを十分に取っていなかったがためのトラブルも生じてしまった。お互いのことを認識していないので余計に緊張した状況が作り出されてしまい楽しめる雰囲気が薄れてしまった。そこから反省をして、今後はお互いを知る時間を取ろうと思う。

この探究で、違う言葉や文化を有している人々と上手くコミュニケーションを取ることが、想定していたよりもはるかに難しいことを知った。少し話ただけで相手の内面をしっかりと知ることは難しい。そのため、今回私たちが催した交流会が受け継がれて何度も繰り返し行われ、繰り返している内にその仲が深まり、真に「相手を理解する」ということを互いにできるとすれば、さらに良いと思う。

多文化共生していくためには異文化を持っている人とのコミュニケーションが非常に大切であり、その中で必要となってくるのが、言語という高い壁を越えるために、できる限りの言語習得をすること、また、ボディランゲージを使うことによってより相手の理解を深めることが特に求められる。

私たちは国際高校生として、『真の国際人』を目指していかなければならない。

・注1:文部科学省『初等中等教育における国際教育推進検討会報告 -国際社会を生きる人材を育成するために- 第1章 国際教育の意義と今後の在り方』

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/026/houkoku/attach/1400594.htm

・刈谷市ホームページ 第2章 なぜ国際化・多文化共生をすすめるのか

https://www.city.kariya.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/061/tabunka_plan05.pdf